

火の見櫓

(題字は 大松八尾市長)

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
松村 康正
八尾市高美町5-3-4
TEL(072)992-0119
FAX(072)992-7722
刊行物番号 R1-210

令和2年消防出初式



令和2年1月11日(土)、大阪府中部広域防災拠点において、新春恒例の八尾市消防出初式が挙行されました。

式典は、大阪市消防局航空隊のヘリコプターによる祝賀飛行、救助隊員によるリペリング降下で幕開けし、消防職員、消防団による徒歩部隊及び自動車部隊の分列行進へと続きました。

今年度、新たに八尾市長に就任された大松市長の式辞では、昨年各地で猛威を振るった台風19号等、近年増加している自然災害に対する防災力向上のお話があり、消防団員として一層身が引き締まる思いでした。

その後、第63回大阪府消防操法大会小型ポンプ操法の部に出場した北東方面隊の選手たちが、市民の皆様の前で操法を披露し、その技術を遺憾なく発揮して盛大な拍手をいただきました。

出初式に参加して、改めて八尾市の安心・安全を守るべく、日々八尾市の消防団員として地域防災力の向上に取り組んでいきたいと思いました。

◆(山本分団 福田 大祐)

新時代に即した消防へ



団長 松村 康正

団員の皆様には、日ごろから地域防災の要として消防防災活動にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、新時代「令和」の幕開けとともに、全国各地で数十年に一度といわれる規模の台風や豪雨が発生し、河川の氾濫、土砂災害、大規模停電など甚大な被害が相次ぎました。

本市においても、度々豪雨に見舞われ、人命にかかわる事故等が無かったものの、大和川をはじめ市域の河川が氾濫危険水位に達するなど、あらためて自然の脅威を痛感させられる年となりました。異常気象ともいえるこれらの状況

を踏まえると、防災・減災の取り組みを加速させることは急務といえます。

災害に対する危機管理意識が高まるなか、本市消防団は市内各所で活発に開催される防災行事等にも積極的に参加し、地域防災力向上に日々励んでおります。このように、我々消防団は、地域に最も密着した防災機関であり、崇高な使命感のもと、その動員力及び即時対応力を活かし、自然災害等の脅威に立ち向かわなければなりません。

おわりに、八尾市消防団は、火災はもとより人命救助活動等に必要な消防資機材や装備品の充実強化、青年層の入団促進、女性分団の職域拡大等、組織の活性化を推進するとともに、地域との更なる連携強化を図る所存です。

災害に強いまちづくりを実現し、市民の安全安心を守るため、引き続き消防防災活動に邁進してまいります。



大阪府消防表彰受章

令和元年度大阪府消防表彰として、本市からも消防庁長官表彰をはじめとして、多くの団員が栄えある表彰を受章しました。

【消防庁長官表彰】

○永年勤続功労章
団本部 団長 松村康正

【大阪府知事表彰】

○消防功労章
龍華分団 分団長 廣岡 勝
大正分団 分団長 松本 徹
西郡分団 副分団長 吉田 美紀
山本分団 副分団長 竹下 健一

【日本消防協会会長表彰】

○功績章
団本部 副団長 川上剛弘

○精績章
団本部 副団長 川上剛弘

【大阪府消防協会会長表彰】

○勤続章
南高安分団 副分団長 松村 吉富
山本分団 副分団長 貝堀 全利
志紀分団 副分団長 中村 博志
志紀分団 部 長 山科 輝明

○勤功章
龍華分団 副分団長 中家 一真
大正分団 副分団長 西山 孝文
南高安分団 副分団長 黒岡 貞一
南高安分団 副分団長 北本 晃史
高安分団 副分団長 米澤 晃尋
山本分団 副分団長 岩崎 利雄
山本分団 部 長 川西 明
志紀分団 部 長 角倉 武士
志紀分団 班 長 松本 昌幸

○精勤章
久宝寺分団 副分団長 赤岩 孝浩
南高安分団 部 長 西尾 克徳
高安分団 部 長 植田 恭啓
大正分団 班 長 戸澤 勝彦
曙川分団 班 長 堤 明義
高安分団 班 長 阪井 俊樹
山本分団 班 長 川田 剛
山本分団 班 長 寺内 亮仁
山本分団 班 長 鹿野 廣之
山本分団 班 長 西尾 和哉
志紀分団 班 長 井形 肇
志紀分団 班 員 長坂 秀和

全国女性消防団員活性化 青森大会

令和元年9月19日(木)に「第25回全国女性消防団員活性化青森大会」が青森県のマエダアリーナで開催されました。私自身、大会に参加するのは今回で5回目ですが、毎回大会の規模の大きさに驚きます。

各都道府県の活動事例発表では、100円均一の商品で揃える非常持ち出し袋を紹介されていました。サランラップをお皿の上に敷いて使い回したり、骨折や傷の応急処置に活用したり、また、ゴミ袋をカップにする活用法など、とても有効だなと思いました。

展示ブースでは、岩手県一関消防団が印象に残りました。長年、「アイオン台風」による水害体験を紙芝居で伝えている千葉貞子さんという方から、一関消防団への啓発活動をバトンタッチしたというお話を伺い、災害を後世に伝えていくのも消防団の大きな役目なんだなと感動しました。

そして、鹿児島県霧島市消防団の展示も印象的でした。展示ブースに、健康状態、困っている事、



避難先等10項目に詳しく分けられている「高齢者ひとり暮らし世帯の訪問表」や、高齢者と消防団員のツーショット写真が飾られているのを見て、高齢者と消防団員が信頼し合える関係なんだと感じました。霧島市の活動はどれも女性ならではの視点で細かいところに目が行き届いており、とてもぬくもりのある消防団だと思います。

活性化大会は毎回刺激を受け、勉強になります。私を感じたこと、学んだことを皆と共有し、今後の消防団活動に活かしていきます。

◆(女性分団 中谷美和子)

厚生事業ボウリング大会

令和元年10月26日(土)、日本各地でラグビーワールドカップの熱戦が盛り上がりを見せる中、我々八尾市消防団も「ワン・チーム」となるべく、八尾ボウルアローにおいて、142名が参加してのボウリング大会が開催されました。

大会は、ボウリングが最も上手な分団を決める分団対抗戦という形式だったので、ゲーム中は終始盛り上がりを見せ、参加団員は、日頃の仕事と団活動との両立によ



る疲労や緊張から解放され、他分団と交流できる貴重な機会を楽しんでいました。

そして、この令和最初のボウリング大会、分団優勝は久宝寺分団、個人の部では山本分団の岩崎団員が見事に優勝され、大会は大成功に終わりました。

今後このような行事の中で、消防団としての団結力を深めつつ、地域貢献に邁進していきたいと思っています。

◆(志紀分団 平池 稔)



秋季消防総合訓練

令和元年11月11日(月)、今年八尾市にオープンした商業施設「アクロスプラザ」で行われた秋季消防総合訓練に、曙川分団が訓練隊として参加しました。

訓練内容は、アクロスプラザ内の衣料品店に不審者が侵入し、ガソリンを撒いて放火したことが原因による火災を想定した訓練で、消火活動や店内に取り残された要救助者の救出活動等が行われました。

ガソリンを撒かれての放火で思い出されるのが、同年7月に京都府のアニメ制作会社で起こった放火事件です。平成以降最多の被害者が出たという痛ましい事件が連日ニュースで報じられていましたが、その中で、被害に遭われた会社は普段から防火・防災に熱心に取り組んでおり、防災訓練にも社員の9割が参加していたとの報道がありました。それでも多くの被害者が出てしまったということで、実際に火災が起きた時に訓練どおりに避難するということが、どれほど難しいことか痛感しました。

もしも今回の訓練場所のような人が多く集まる場所で実際に同様の災害が起きたらと考えると、改めて怖さを感じました。

今回の訓練を通じて、日常生活でいつ起こりうるかわからない災害や事故に対し、消防団員として冷静に対応し、日々の訓練成果を発揮できるよう努力を継続していきたいと改めて思いました。

◆(曙川分団 齊藤 勝義)



大正・大正北小学校 学習指導

令和元年10月15日(火)大正小学校で3・4年生を対象に、11月12日(火)大正北小学校で4年生を対象にした消防学習指導を行いました。

両日とも、始めに消防職員と消防団員の違いや、消防車の資機材に関する説明をした後、各クラスに分かれて放水訓練、煙中体験、バケツリレーなど様々な消防活動体験をしていただきました。

放水訓練では、安全管理として消防団員が補助について、全生徒が順番に放水を体験してもらいました。放水訓練の最後には先生方



にも現場外套を着て放水訓練に参加していただき、生徒達の注目を集めていました。

学習指導終了後、消防団の屯所に戻り放水訓練で使用したホースや、積載車を洗っていると、下校途中の生徒たちが「ここに消防車あったんや。今日はありがとうございました。楽しかった。パパにも消防団に入って欲しい」と嬉しい声をいただきました。

消防学習を通して、子供たちの声が消防団員の励みにもなり、消防団員の活動が地域における防災意識を高め、相互作用によって、安心して暮らせるまちづくりへと繋がるように、今後もより一層地域に密着した活動に励みたいと思います。

◆(大正分団 北野 智傑)



秋季火災予防訓練

秋季火災予防運動は、火災が発生しやすい時期を迎えるに当たり、火災予防意識の一層の向上を図ることで、火災の発生を防止し、高齢者等を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的として、毎年11月9日から11月15日に全国各地で実施されており、八尾市消防団でも各分団がそれぞれの管轄地域において、夜間巡視パトロールを実施しています。



私の所属する南高安分団でも、各団員がそれぞれ分担し、一週間毎日地域の巡回を実施しています。市民への防火広報や放火防止が主な目的ですが、各団員が消防車の運転に慣れる機会でもあります。地元の方でも普段の生活では通らないような道や、知らない道を走行して、災害出動時にスムーズに現場へ向かえるよう心掛けています。

この火災予防運動を行うことで、市民一人ひとりの防火意識が高まり、それが火災や放火の防止に繋がれば嬉しいです。

◆(南高安分団 森川 泰典)

高安中学校区 まちづくり協議会訓練

令和元年11月24日(日)高安小中学校にて自主防災訓練が実施され、高安分団も地域住民の方々と共に参加しました。当日は、地区ごとに公民館からの避難経路を確認しながら歩き、避難所となる学校へ向かいました。校内では、消防署員、消防団員指導のもと、油圧ジャッキを使って倒壊家屋に挟

まれた人を助け出す「倒壊家屋救出訓練」、放水体験をしてポンプの使い方を学ぶ「可搬ポンプ取扱訓練」、消火器の正しい使い方を知る「初期消火訓練」、火災時の煙の状況を体験する「煙中体験」、AEDの使い方を学ぶ「心肺蘇生訓練」などを市民の皆さんに体験していただきました。

各訓練では、消防署員の方々から詳しい説明があり、質疑応答では「小さい子供に対する心臓マッサージの方法は？」等様々な質問が飛び交い参加者のみなさんの防災に対する意識の高さが見えました。

参加者からは、「簡単な様に見



えて実際体験してみると、なかなか思っているようにはいかなかった。災害時焦った状況で初めてやるより、こういった機会に訓練ができてとても良かった。などのお声がありました。訓練の終わりには、非常食の試食としてアルファ米のご飯と豚汁をいただき、災害時への備えの大切さも学びました。

災害はいつ起こるかわかりません。地域住民のみなさんの防災への意識の高さを目の当たりにし、消防団員として災害時に冷静に対応できるように、日々の心がけ、訓練が大事だと考えさせられる一日でした。

◆(高安分団 松浦 英治)

歳末警戒

令和元年12月28日(土)、毎年恒例の歳末特別警戒を行いました。龍華分団では毎年年末の2日間、団員が屯所に集合し、消防車両で管轄地域のパトロールを行います。

歳末警戒パトロールは、地域の火災予防、放火防止に繋がるだけでなく、日頃中々お会いすることのない地区の役員さんや、自治会の方々とお顔を合わす機会でもあり、毎年多くの方々とお接することの出来る良い機会になっています。



今年度は龍華分団の管轄地域にある各自治会のパトロール拠点9カ所に回らせていただきましたが、竹淵、亀井、跡部、太子堂、植松、安中、どの地域においても、年末の寒い中、たくさんの方々の地域の方々が大勢集まられていて本当に頭の下がる思いでした。

私たち消防団も、より一層地域の防火・防犯に少しでもお役に立てるよう頑張らなくてはと改めて心に思う2日間でした。

◆(龍華分団 山崎 聡)

許麻神社とんど祭

令和2年1月14日(火)に久宝寺地区許麻神社にて、とんど祭が執り行われました。

お正月に飾った門松や松飾り等を、神社や地域の方々でとんど槽に集め18時頃から点火し、新年の無病息災と家内安全を願う年中行事です。この行事は日本各地で行われ、どんと焼き、どんと焼きなど、様々な言い方があります。

この日は雨が降っていて、気温も下がり冷え込んでいましたが、地域の方々がたくさん参られました。許麻神社では、のっぺい汁を振舞って頂き、参られた方々は、冷えた体をとんど焼きの火とのっぺい汁で温めて帰られたと思います。

許麻神社とんど祭では、点火の際に火柱が御神木近くまで立ち上り危険を伴う場合がありますので、用心の為、久宝寺分団が待機して安全を確保しています。また久宝寺分団だけではなく、八尾市では各地域でとんど祭が行なわれているため、八尾市消防団の各分団が同様に安全管理を実施しています。

これからも久宝寺分団の一員として、地域の方々と連携し、とんど祭などの地域の催し物や、災害発生時には一致団結して、安全安心な町、住みよい町にしていければと思います。

◆(久宝寺分団 堂田 隆治)



若なる会親睦旅行

令和2年2月1日(土)、2日(日)の2日間、八尾市消防団幹部の親睦を目的とした、毎年恒例の若なる会親睦旅行において、鹿児島県桜島方面を訪れました。

桜島は、日本の九州市南部、鹿児島県の鹿児島湾にある東西約12キロメートル、南北約10キロメートル、周囲約55キロメートル、面積約77平方キロメートルの火山で、かつては島でしたが、1914年の噴火により、鹿児島市の対岸の大隅半島と陸続きになったそうです。

現地では観光中、桜島の噴火を目



の当たりにし大変驚くと同時に、八尾市において大規模な自然災害が発生した場合、消防団員としてのどのような活動を展開できるか、沈着冷静かつ迅速な対応ができるか、と深く考えさせられました。

その後の昼食では、鹿児島黒豚料理に舌鼓を打ちながら、他の幹部と、これからの消防団としてのあるべき姿や各分団が抱える悩み等について、様々な話をしました。

今回の旅行を通じて、消防団幹部の親睦が一層深まったことは言うまでもなく、また分団間でも様々な建設的な意見交換や情報共有ができ、八尾市の安全安心を守る消防団として、一致団結した効果的な活動ができると確信しました。消防団員として忘れられない素晴らしい旅行になりました。

◆(八尾分団 鈴木 卓也)

若手消防団員研修会

令和2年2月9日(日)大阪市のKKRホテル大阪において、大阪府若手消防団員研修会に参加させていただきました。

研修ではS-K-Y-T(消防団危険予知訓練)の方法などを学びました。研修内容は危険予知や、その対策、各団員の健康状況の把握などを勉強しました。

大阪府下各市町村の消防団はそれぞれ活動内容が様々ですが、仕事や仕事終わりに突然災害出場しなければならぬという点は各消防団共通しているため、団員の体調管理等に十分留意し、事故や怪我に注意することが重要だと改めて思いました。

また、研修終了後、各市町村の消防団の方々と貴重な意見交換ができる時間も設けていただき、とても良い雰囲気での研修会でした。

◆(西郡分団 棚田 秀行)



感染症拡大とその対策

国内にとどまらず、世界規模で新型コロナウイルスの感染が拡大しています。大阪府内でも感染者が出る危機的状況にあり、早急な対応が急がれておりますが、我々消防団員は、地域住民を守るため、火災等の災害対応にも万全を期さなければなりません。

うがいや手洗いの励行、不要不急の外出を控え人混みを避ける、マスク着用やアルコール消毒を積極的にを行うなど、あらゆる感染予防策をとり、自身のみならず家族を含めた全員で健康を確保し、いざという時の消防団活動に備える必要があります。

国難ともいえるこの局面においても、地域を守るといふ強い郷土愛の精神で消防団活動にしっかりと励みたいと思います。

◆(山本分団 渡瀬 太一)



救急車の 適正利用について

私たちが普段街中で目にしている救急車ですが、近年この救急車の適正利用を訴える声が多くなっています。全国的に救急件数は増加しており、八尾市でも年々救急件数が増加しています。令和元年中における八尾市の救急件数は17,121件で、一日平均47件、31分に1件のペースで救急車が出動していることになります。

そのために、本当に救急車が必要な人に救急車がすぐに出場できない事があります。

通常、119番の救急要請を受けると、現場から一番近い救急車が出場しますが、その近くにあるはずの救急車が出場している場合は、遠方にある別の救急車が出場することになり現場への到着に時間を要してしまいます。

このように、救急車の出場要請が増えることにより119番を受けてから救急車が現場に到着する時間が遅れ、救える命が救えなくなる場合があります。

近年、軽い症状でも救急車を利用する人が増え社会問題になって

います。このような状況が続きますと、事故による大ケガの人や、心筋梗塞や脳卒中などで緊急に病院などへ搬送する必要がある人への救急車の到着を遅らせることになりません。

119番通報する前に、救急車が必要か、自家用車やタクシーなど一般の交通機関を利用できないか、もう一度考えてください。ただし、命にかかわる病気やケガで緊急に病院へ行かなければならない場合は、迷わず119番通報してください。

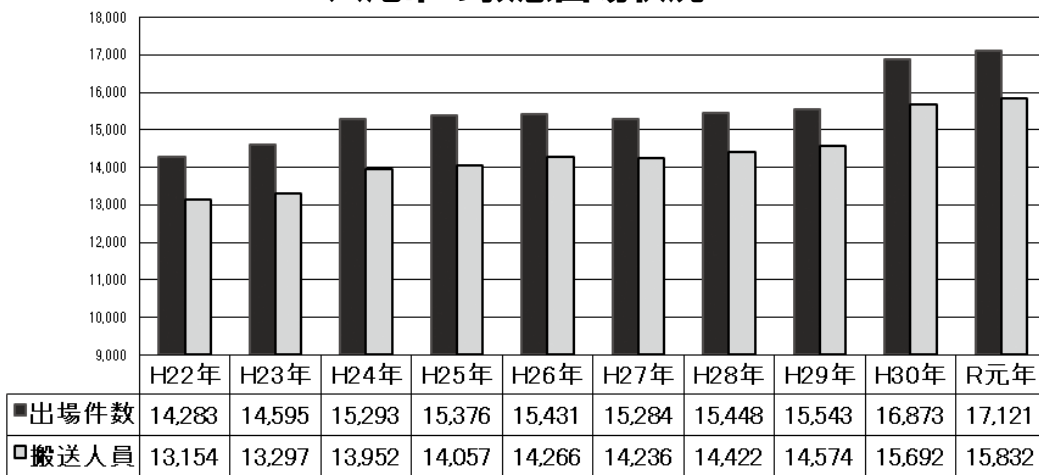
救急車を本当に必要とする人のために、みなさんのご理解とご協力をお願いします。

私たち消防団の「火の見櫓」から少しでも市民の方々に救急車の適正利用について知っていただき、今後も消防団としてこのような広報活動に積極的に取り組んでいきたいと思えます。

◆(龍華分団 西川 尊之)



八尾市の救急出場状況



編集後記

今回、委員長という大役を任せられ、不安な面もありましたが、各分団の広報委員の方々に助けていただきながら、無事に第44号・第45号を刊行する事が出来ました。未熟ではございましたが、1年間支えていただき、本当にありがとうございます。

◎ 広報部員名簿 ◎

- | | | |
|------|-------|--------|
| 委員長 | 西郡分団 | 棚田 秀行 |
| 副委員長 | 龍華分団 | 西川 尊之 |
| 委員 | 山本分団 | 福田 大祐 |
| | 久宝寺分団 | 土谷 研太 |
| | 西郡分団 | 堂田 隆治 |
| | 八尾分団 | 安田 武仁 |
| | 龍華分団 | 梶井 健太郎 |
| | 大正分団 | 山崎 幹夫 |
| | 曙川分団 | 北野 智樹 |
| | 南高安分団 | 大藤 秀義 |
| | 高安分団 | 斎藤 勝彦 |
| | 山本分団 | 西尾 康彦 |
| | 山本分団 | 浅井 良彦 |
| | 山本分団 | 森川 康彦 |
| | 山本分団 | 松浦 泰典 |
| | 山本分団 | 貴島 英治 |
| | 山本分団 | 渡瀬 浩一 |
| | 山本分団 | 北山 太一 |
| | 山本分団 | 池田 稔 |